

～散乱ごみから水鳥を守れ！～ 「はとの子自然探検隊」

東近江市立愛東北小学校（第10回 環境美化教育優良校等表彰事業 特別賞受賞校）

鈴鹿山脈の山裾に位置し、田畑や果実園の広がる農村地域にある東近江市立愛東北小学校。この地域は今では全国的に広がっているリサイクル事業の「菜の花プロジェクト」の発祥地でもあります。

学校の近くにある「恵美須溜」には、冬が近づくと多くの水鳥が飛来しますが、水鳥に害を及ぼす散乱ごみが多く見られます。愛東北小学校は、昭和42年より何度も愛鳥モデル校の指定を受け、学校周辺のため池での水鳥観察と散乱ごみの回収を続けています。



「はとの子遠足」で清掃活動。子どもたちは地面にひざをついて積極的にゴミを拾います



有識者にごみによる水鳥の被害をお話していただきます

水鳥が受けるごみの影響を具体的に知る

愛東北小学校では、6月に全校で行う「はとの子遠足」で周囲の散乱ごみを回収します。この活動は全学年で行うため、学年が上がるにしたがって、下の学年のお手本にならなくてはならない、みんなを引っ張っていかなければならないという責任感が生まれます。

また、ゴミ拾いのあとに、地元池之尻町の水鳥観察の有識者にお話をしてもらいます。水鳥が誤ってごみを食べてしまい死んでしまったり、釣り糸が足に絡まるなどの散乱ごみでの具体的な被害を聞くことで、児童たちはごみの散乱を防ぎたいという環境への配慮の気持ちが生まれます。

野鳥を観察しながらのごみ拾い



水鳥の観察。ごみを拾うことで水鳥を守っていることを実感します

5・6年生の総合的な学習の時間では、「はとの子自然探検隊」と称して、身近な自然を考える環境学習を実施しています。

秋から冬にかけての時期に、校区内のため池に出かけ、「ごみを捨てる人は何を考えているのだろうか?」「どうしたらポイ捨てがなくなるのだろうか?」といったことを話し合いながら、ごみを拾い活動を行います。生物を思いやり、生命に関わる活動を通してゴミを拾うことにより「ポイ捨てはいけないことだ」、「中学校へ行ってもため池をキレイにしたい」などの思いが強くなります。



5・6年生による「はとの子自然探検隊」で清掃活動を行います

さらに、平成21年度から22年度にかけて青少年赤十字活動の研究指定を受け、「奉仕」「環境」「健康・安全」「国際理解」の実践目標について、主体的に取り組む児童の育成をめざしています。

特に青少年赤十字活動の「気づき」「考え」「実行する」という態度目標は、散乱ごみの回収活動にも通じ、研究の中核として位置づけ、取り組んでいます。滋賀県が独自に進める、環境学習の内容を家庭や地域で実践する「エコ・スクールプロジェクト」にも取り組んでおり、活動を通じて、主体的に地域への関わりをもてるような子どもたちの育成につながっています。

【学校情報】※平成22年1月現在

滋賀県東近江市立愛東北小学校

◆住所

滋賀県東近江市百済寺本町1399番地

◆学校長：今井清

◆児童数：142名

◆創立：明治30年4月1日

